



# 神石小だより

神石高原町立神石小学校  
学校だより2月号  
令和5年2月14日

## なわとび大会 1月26日(木)

体育委員会主催のなわとび大会を実施しました。業間体育の「なわとびタイム」や体育の時間等に練習を積み重ね、自己記録更新を目指してがんばりました。結果は1人2種目ずつ挑戦し、多くの児童が自己新記録を出すことができました。新記録が出せなかった児童も自分がかんばったことを実感し達成感を持つことができ、本校の目指す「たくましい子」に育った姿が見られました。また、縦割り班ごとで競う大縄跳び（一斉跳び）も行われ、班ごとに休憩時間に練習に取り組んでできました。練習の時から上学年の児童が下学年の児童にアドバイスをするなどよいかわりが見られました。



## トランペット鼓隊 引継式

1月23日(月)にトランペット鼓隊の引継式を行いました。12月のミニコンサートでは、すばらしい演奏を披露してくれました。このメンバーでの最後の演奏を行い、新たな楽器担当の発表を行いました。新たに令和5年度神石小学校トランペット鼓隊が結成されました。6年生の皆さん、ご苦労様でした。



## ふるさと神石に誇りを持つ児童に

ふるさと神石について学習をしています。今回の見学では、1月25日(水)に6年生が総合的な学習の時間の学習で「幻の鍾乳洞」に行かせていただきました。鍾乳洞では、鍾乳洞の神秘さを感じ取り、「幻の鍾乳洞」と名付けられた理由を学んだりすることができました。また、改めて自分たちの住む地域のよさを感じることができました。



令和4年度環境と健康のポスター・標語コンクール事業への取り組みに対して一般財団法人広島県環境保健協会、神石高原町公衆衛生推進協議会より、学校奨励賞をいただきました。



## 令和5年度児童会役員選挙

2月9日（木）に令和5年度児童会役員選挙を行いました。立候補した児童は「気持ちのよいあいさつができる学校」「いつも元気でよいあいさつができる学校」「明るく楽しい学校」などの公約を演説で述べました。選挙の結果、会長・副会長・議長・書記が次のとおり決定しました。今後の活躍を期待しています！令和4年度の児童会役員の児童もこれまでよくがんばりました。これからも協力し合い、よりよい神石小をつくっていきましょう。



### 【令和5年度児童会役員】

会 長：宮野 彩七さん（5年）  
副会長：富永 哲平くん（5年）  
議 長：横尾 歩海さん（5年）  
議 長：小塩 健太くん（4年）  
書 記：美野 琳香さん（5年）  
書 記：長田 のんさん（4年）

### 2月・3月の主な行事予定

2月16日（木） 新入生保護者説明会  
24日（金） 児童総会  
3月 1日（水） 3学期末PTA  
3日（金） 6年生を送る会  
23日（木） 卒業証書授与式  
24日（金） 修了式・離任式



### 成長する子どもたち!! 「責める」「放る」→「注意する」「許す」姿

今年度も終わりに近づいてきて、子どもたちの成長の姿が様々な場面で見られています。今回は、友だちとの関わりの中から、その姿を紹介します。

4月から5月、新しい係が決まり、新しい先生との生活の中で、今までのシステムも多少変わったせいか、「何しようるんよ。ちゃんとしんさいや。」「何で宿題出さんの。早く出しんさいや。」「ここじゃないでしょ。こっちに出すんよ。何回言ったらわかるん?」と、厳しく友だちを『責める』姿が何度か見られました。しばらくすると、何度言っても直らないので、あきらめて、「いいよ。何回言っても聞いてくれるのじゃけえ。」と、『放っておく』姿が少しずつ見られるような時期がありました。しかし、『責める』子も『責められる』子も、『放っておく』子も『放っておかれる』子も、そんな人間関係が面白いはずはありません。でも、相手に言いたいこと、自分が主張したいことはあるのです。その「自分の思いを相手にわかるように伝えること」は、「相手の言い分もわかろうとすること」にもつながるのです。だから、時に、学校で教職員が子ども両者の言い分を聞き、それをわかりやすく相手に伝える場を設けることがあります。すると、だんだん、子どもたちは、相手の善くない行いを見つけたときも、きつく『責める』のではなく、「そんなことは、しないほうがいいと思うよ。」「そんなことは、～～じゃけえ、もうやめて、〇〇をしようや。」などと、上手に『注意をする』姿が見られるようになってきたのです。すると、『注意する』子も『注意された』子も、すっきりした感じになってきました。『放っていた』子も、「今日は、〇〇ができていなかったけど、何かあったのかな。今は言わずに、ちょっと見ていて、あと2・3日たって、〇〇ができていなかった理由を聞いてみようかな。」「今日は、昨日よりよくなっているから言わないでおこうか。」なんて、その時は、『許して（許容して）』、あとで話をする姿も、特に高学年では見られました。

ご家庭・地域でも、子どもたちの言動に対して、「なぜできないのかなあ。」と見られている方も多いと思います。家庭でも、何回言っても同じことを繰り返すこともあろうかと思えます。それでも、粘り強く『注意したり』、時には、どうしてそんなことをするかをわかろうとして、程度によっては『許したり』することも必要なのではないかと思います。

子どもたちが少しずつ成長するために、どんな声かけをすればよいか、学校・家庭・地域でともに考えていきましょう。何卒、ご協力をよろしく願いいたします。



神石小学校  
校長 田丸 栄